

# 安心・安全に対する保護者の意識の検討

塚田 伸也

## 1. はじめに

子どもを対象とした凶悪犯罪の報道や関心を背景に、子どもに対する安心、安全に対してまちづくりの取り組みが全国的に注目されている（以下「安心・安全まちづくり」と称す）。安心・安全まちづくりへの取り組みは、地域のコミュニティ、犯罪が発生する場所の環境、犯罪が発生する時間といった面と、明らかにされた課題への解決方法や防犯対策の実現の面の2つの視点から検討がされている。

1つ目の地域コミュニティ、犯罪が発生する場所の特性、犯罪が発生する時間の面での検討では、人々の近所づき合いの濃厚さや人間関係の満足度などが犯罪の抑止に寄与する可能性が示されている<sup>1)</sup>。近年、犯罪が発生する場所は、都道府県警の「犯罪発生マップ」によって一般公開がされているが、閉鎖的な場所や道路形状が複雑な場所で犯罪が起りやすい傾向が把握されおり、犯罪は空間に加えて時間的にも集中して起こる傾向を示している<sup>2)</sup>。また近年、従来の地域コミュニティが変貌しているなかで、子どもの安心と安全面を確保していく面からも、コミュニティのあり方に関心が注がれている。このように治安問題がコミュニティと切り離せない問題であることは、誰もが首肯する命題である。問題点として、コミュニティ関係のあり方が定量的に捉えることが安易でなく、防犯に至るプロセスが、あまりに直接的ではないことが挙げられる。

2つ目の安心・安全まちづくりの検討で明らかにされた課題における解決方法や防犯対策の実現では、子どもを犯罪から守る活動として、地域ぐるみで子どもを見守りパトロールを行っているケースがあり、グッズとしてGPSを用い、子どもの屋外行動の時空間特性を把握した上で見守り活動を評価するケースもある<sup>3)</sup>。

個人が、犯罪もしくは犯罪から連想される要素に対して抱く恐怖や不安などの感情的反応を犯罪不安感という。その存在は、人々の対処行動の源泉となる一方で、通常時の行動の阻害要因ともなる。安心・安全まちづくりの実現は、犯罪の減少とともに犯罪不安の緩和を大きな目的としており、不安を喚起させる場所や要因との関連が検討されたケースもある。

小さい子どもたちの行動半径は極めて狭く、ここに最小限の地域集団が発生する。このため、小学校の校区というものは、子どもにとって最も身近で重要なコミュニティの単位（グロス）である。本稿は、PTA、主任児童委員、地区の育成会活動を通じて得られた経験をもとに、小学生で行なわれている安心・安全のための活動の課題を示す（2章）。次に安全に関する保護者の認識や学校での取り組みについてアンケート調査の結果を紹介し（3章）、安全対策に対する総括的な把握を行ない今後の着眼点を論ずるものとする（4章）。

## 2. 小学生で行なわれている安全活動の課題

小学校では、以下に掲げる子どもの安心・安全を守るための活動がされている。

### (1) ウォーキングバス

ウォーキングバスとは、生徒の帰宅に際して一斉下校するのをバスに見立てて運転手役の大人の中に子ども達が並び集団で下校を行うもの。また、ウォーキングバスの時間に合わせて、PTA役員や地域の住民がコース周辺を徒歩や自転車でパトロールを行っている。ウォーキングバスの運転手は、保護者が当番で行なっている。しかし、パトロールに参加しない（できない）保護者への対応が課題となっている。

### (2) 防犯グッズの所持

新入学児には、外出時に危険を察した時、大音量で不審者を威嚇し、周囲に危険を知らせる防犯ブザーが配布される。防犯ブザーはランドセルの背負いベルトに携帯している。保護者には、学校の緊急連絡、不審者の出現や事故等についてメール配信するオレンジメールがある。実際に被害に遭遇した時、防犯ブザーをうまく利用できるのか、携帯電話が利用できない世帯への情報共有の平等性が課題となっている。

### (3) 子どもかけこみ110番

子どもかけこみ110番とは、子どもが犯罪被害にあいそうになったりした時に助けを求めて駆け込める場所であり、駆け込み先は一時的な保護や関係機関への通報を行っている。駆け込み先は、商店や美容院等にボランティア的で自発による協力を依頼しているが、配置の計画性や実際の運用面での効果が課題となっている。

### (4) 防犯教育

防犯教育とは、犯罪をさせない、犯罪に遭わないために行う教育であり、保護司などを外部講師として招き実施する。保護司は、自らの経験を通じて犯罪を起こしてしまった人の懺悔やその後の生活への影響などを語る。被害時対策教育は、犯罪被害に遭った場合に、犯罪被害の損失などを回避、もしくは低減するための対応について勉強を行なうものである。講習は公民館などを借用して行なわれるが参加者を如何に確保するかが課題となっている。

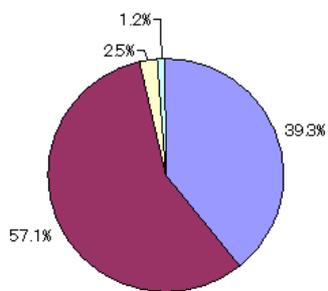
### (5) 地域安全マップの作成

地域安全マップは、犯罪が起こりやすい危険な環境を、子どもが実際に歩き、点検することで地域における安全マップを作成するもの。子どもの犯罪回避能力を養うことを目的としている。未だ安全マップを作成して保護者へ配布しているところに留まり、安全マップの具体的な活用方法や地域への広報が課題となっている。

### 3. 安全に関する保護者の認識や学校での取り組みについて

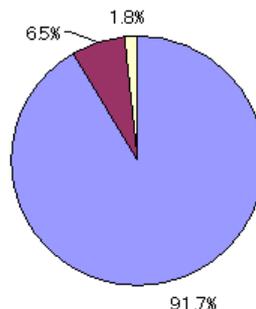
前橋市内の城東小学校の保護者を対象に 2010 年 1 月に行なったアンケート調査<sup>4)</sup>により、安心・安全への防犯に関する保護者の認識を検討する。アンケート調査は、小学校の児童に直接配布し、児童の保護者が記入、後日児童より直接回収を行った（N=189）。

図 1 は、「子どもの安全に関する環境についてどのように感じますか」について伺ったものである。96.4%の保護者が「非常に心配している(39.3%)」、「心配している(57.1%)」という結果となった。図 2 は、「子どもの安全対策をされていますか」について伺ったものであり、91.7%の保護者が「している」という結果となった。近年の小学校の保護者の安全に対する意識は高く、安全対策の実施の高さが窺われる。



■非常に心配している ■心配している □心配していない □分からない

図 1 安全に対する環境について



■している ■していない □分からない

図 2 安全対策の有無について

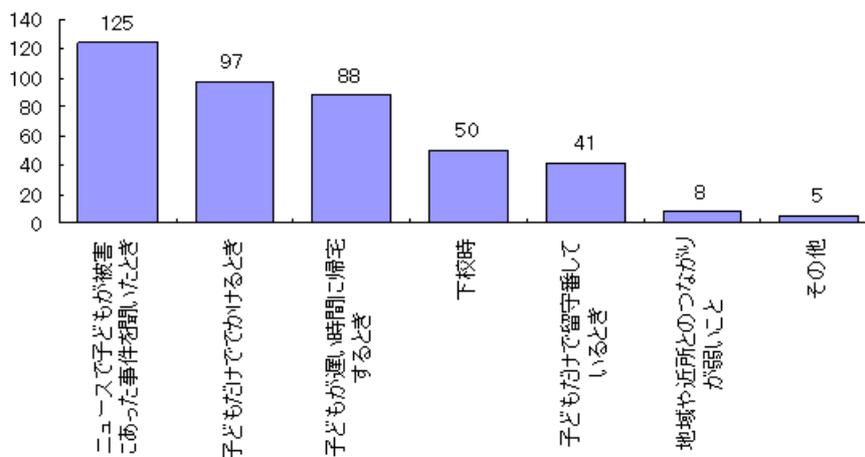


図 3 犯罪や事件への心配をする時（複数回答）

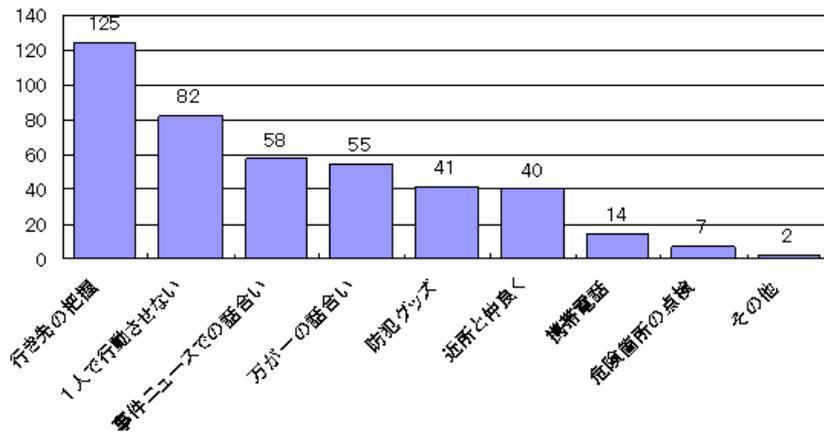


図4 実施している安全対策（複数回答）

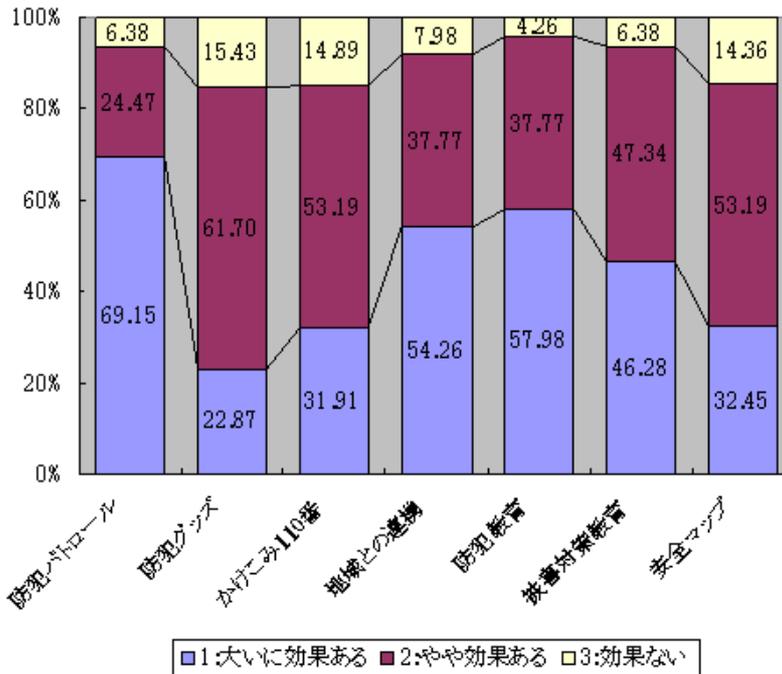


図5 防犯対策の評価

図3は、「あなたのお子さんが犯罪や事件に巻き込まれるのではという心配になるとき」の具体的な内容について伺ったものである。図より、「ニュースで子どもが被害にあった事件を聞いたとき(125)」が最も多く、次に「子どもだけででかけるとき(97)」、「子どもが遅い時間に帰宅するとき(88)」という結果となった。また、「地域や近所とのつながりが弱いこと(8)」は得票数が少ない結果となった。図4は、「あなたのご家庭で実施している安全対策」の具体的な内容について伺ったものである。図より、「行き先の把握(125)」が最も多く、

次に「1人で行動させない(82)」、「事件ニュースでの話し合い(58)」という結果となった。

「携帯電話の所持(14)」や「危険箇所の点検(7)」は得票数が少ない結果であった。

図5は、小学校における安全を守る各取り組みの評価について伺った結果である。図より、最も「大いに効果がある」と答えた取り組みが「防犯パトロール」であり、「大いに効果がある(69.15%)」、「効果がある(24.47%)」という結果になった。これに対して、「安全マップ」は「効果がない(14.36%)」という結果になった。

#### 4. 総括

子どもの犯罪に対する安心・安全は、家庭、学校、地域による各々の安全対策の実施と教育の充実、犯罪が想定される危険場所を認知することで、充実できるものとする。本稿では、安全・安心を守るための活動について、小学校の保護者の意識を調査し、傾向を探った。結果、安心・安全の取り組みに対する基礎的な知見を得ることができた。

(1) アンケート調査によって、96.4%の保護者が子どもの安全に対する環境について心配しており、心配になるときは「ニュースで子どもが被害にあった事件を聞いたとき」という子どもを対象とした犯罪の報道と答えた保護者が最も多い結果となった。また、「地域や近所とのつながりが弱いこと」と答えた保護者が少ない結果となった。

(2) アンケート調査によって、91.7%の保護者が家庭において安全対策をしており、具体的な防犯対策として「行き先の把握」と答えた保護者が最も多い結果となった。また、「危険箇所の点検」と答えた保護者が少ない結果となった。

(3) 学校における防犯対策の具体的な取り組みにおいては、「被害者対策教育」、「防犯パトロール」や「防犯教育」の実施が、「防犯グッズ」の所持や「かけこみ110番」の実施と比較して効果があると評価された結果となった。

なお、今後の展開として、安全・安心への取り組みは、各地域や各学校においても多様である。これら取り組みについて、全国的な規模で把握し、各取り組みを類型化し、これら活動を定量的に評価することが必要であるとする。

#### 【参考文献】

- 1) 清水賢二(1982):市街地環境と都市犯罪,科警研報防犯少年編,23(1),42-51
- 2) 雨宮護・斎藤知範・島田貴仁・原田豊(2008):小学校児童の空間行動と犯罪被害に関する実証的研究,都市計画論文集Vol.43(3),pp.37-42
- 3) 雨宮護・斎藤知範・菊池城治・島田貴仁・原田豊(2009):GPSを用いた子どもの屋外行動の時空間特性の把握と大人による見守り活動の評価,ランドスケープ研究Vol.72(5),pp.747-752
- 4) 平成21年度 前橋市立城東小学校防犯に対するPTAアンケート,2010